

2023夏ボラ新聞

— 発 行 者 —
社会福祉法人
新見市社会福祉協議会
令和5年11月1日

新見市社会福祉協議会（社協）では、中高生の皆さんにボランティアの機会を提供し、地域や福祉についての理解を深めていただく「夏のボランティア体験（夏ボラ）」を毎年実施しています。今年度は、7月9日に「防災」や「災害時にできる事」をテーマに、近年増加している自然災害を想定し、災害時のボランティアや地域で役立てられる活動について学び、自分たちにもできるボランティアについて考える機会や、得た知識を地域の防災意識の向上に役立ててもらおう機会として実施し、市内全中学校より28名の参加がありました。

ボランティア研修会

災害ボランティアセンターについて

研修会では、ボランティアに関する社協の活動紹介と、ボランティアの意義や種類などについて学んだあと、平成30年と令和元年に新見市で起こった集中豪雨災害について、写真スライドを見ながら、身近な場所が浸水している様子や土砂災害の様子をふり返りました。

そして、災害時に社協が設置する「災害ボランティアセンター」について、1日の流れや活動時の様子を見ながら、ボランティアによる様々な支援活動が行われたことを学びました。

参加者のコメント

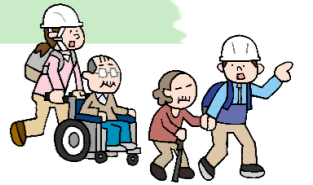
- ▶ 家族とともに、すぐ避難できるような事前準備（食料・薬・衣類・ペットの餌など）
- ▶ 油断せずにニュースや警報に留意し、最新の情報を集めながら、冷静に避難の判断をすること
- ▶ 避難場所や経路を確認しておくこと
- ▶ 浸水を想定して2階へ生活必需品や貴重品を備えておくこと
- ▶ 地域の被災状況にも気を配り、地域の人にも声をかけること

新見市の被災状況をふり返り、
どんな備えが必要だろう？

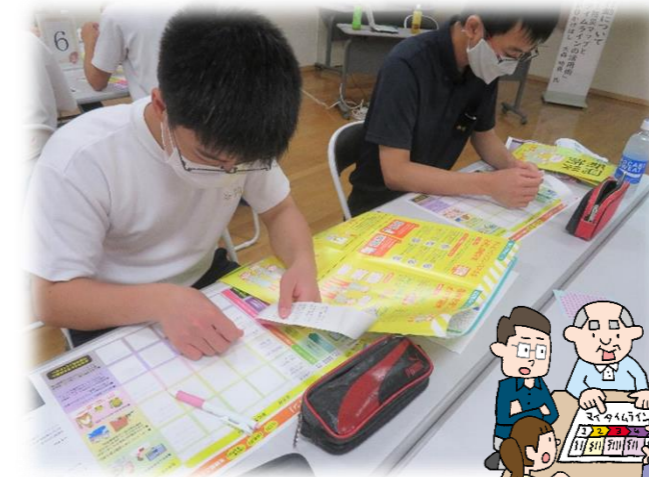


災害支援ネットワークNPO かけはし 大森 功資 先生の講義

災害時の実際と行動について 「未来を変える！防災マップとマイタイムラインの活用術」



市から各地域に配布されている「防災マップ」を見ながら、自宅が警戒区域内か？避難所はどこか？などを確認し「いつ・だれが・何をするか」を避難レベルごとに考え、必要な備えや避難所へ行くまでの行動を「マイタイムライン」として作成しました。



どのタイミングで避難を始めようか？

家族と離れた場所にいる時の為に
避難場所を決めておこう！

ライフラインが断たれた時に
何が必要になるかな？

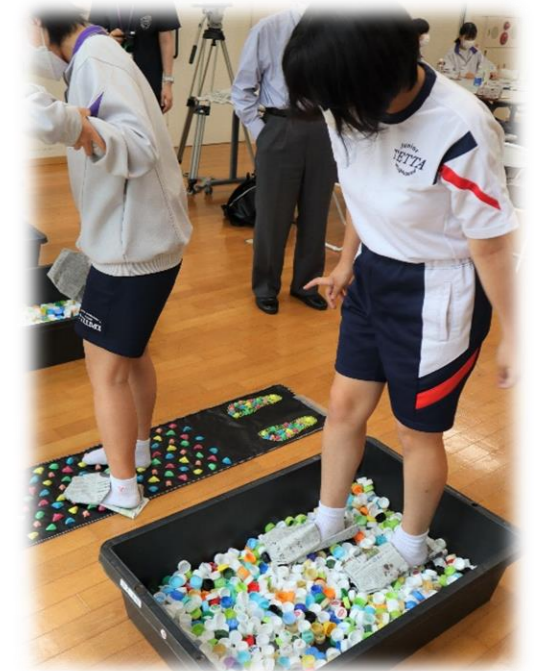
家族と役割分担をして、
自分のできることは自分でしょう！

近所へ声をかけることも大事なな

ワークショップ

ワークショップでは、新聞紙で簡易スリッパを作りました。枚数を重ねて分厚くすると、ペットボトルキャップの上などの足場の悪いところでも、破れることなく歩くことが出来ました。

また、避難所で活用される市の防災備品に実際に触れてみたり、段ボールベッドや発泡スチロールベッドを作る体験などを行いました。



身近なもので防災グッズを作ろう

避難所で使う備品に触れてみよう



小さい段ボールをマトリ
ヨーシカのように合わせ
るとベッドになるんだ!



↓段ボールベッド



～ 参加者の感想 ～

- ・思っていたより避難所があり、色々な防災備品があると分かった。
- ・避難所生活のプライバシーを守る工夫があると分かった。
- ・工夫次第で身近にある新聞紙や段ボールで手軽に役立つものが作れると知った。
- ・学んだ知識をたくさんの人に共有していきたい。
- ・災害時には自分が出来る事から手伝えるようにしたい。
- ・防災についてよく知ることができ、自分も無関係な話ではないと思った。様々な場面を想定して対応できるように準備しておきたい。

みんなで協力すれば、あつという間にできたね。



↑発泡スチロールベッド



↑ワンタッチパーテーション



↑キャンプ用簡易ベッド

防災新聞で発信しよう

防災新聞

自分たちができるボランティア活動の一つとして、今回学んだ防災知識を「防災新聞」にまとめ、家族や友だち・地域の方々にてもらい、防災の輪を広げよう！という事後学習を呼び掛けたところ、7名の参加者より防災新聞の提出がありました（共同制作含む）。地域福祉センターや福祉大会で掲示後、地域の公民館や学校などでも掲示して頂く予定です。



発泡スチロールも段ボールもこんなに座っても大丈夫だよ～！



編集後記

今年の7月6日で平成30年の西日本豪雨災害から5年が経ちました。被災者の多くが「まさかこんなことに・・・」「あの時、電話だけでも避難の声をかけていれば・・・」と悔やまれる様子が報道されていました。新見市も、防災マップの危険区域内で災害が起きました。しかし、多くのボランティアや地域の人たちの協力があり、被災された方々も現在ではもとの生活を送ることができています。災害はいつどこで起こるか分かりませんが、台風や大雨などは備えられる災害です。防災の知識があることで、助けられる人から助ける人になります。夏ボラでの体験や学んだ知識は、いざという時に行動できる自信にもつながります。今回の学びを今後の生活に活かし、家族や友だち、地域の人々の為に活躍する大きな力となる事を期待しています。